

Title	一般物価水準変動会計に関する一考察
Sub Title	
Author	鈴木淑人(Suzuki, Yoshito) 高橋吉之助
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0089">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0089</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 鈴木 淑 人 主査 高 橋 吉之介 教授  
(株式会社 平和相互銀行) 副査 伏 見 多美雄 教授  
所属ゼミナール 柴 田 典 男 研 柴 田 典 男 助教授

## 一般物価水準変動会計に関する一考察

近年、我国においても、インフレーション会計についての関心が年々増加する傾向にある。それ故インフレーション会計に関する研究は重要な課題の一つである。

本論文では、インフレーション会計の一形態である一般物価水準変動会計 (GPLA) について、① 企業の内部データに基づく GPLA 修正計算を通じて、外部からの分析手法による修正計算の精度を検証し、② 上記プロセスを経て、より精度の高い外部からの分析手法を考察する、という二点につきその実証分析を試みた。インフレーション会計に関する理論的研究には枚挙にいとまがないが、上記の点については、現在まであまり研究されてこなかったが重要な問題である。自己資本比率が高く償却対象資産比率が低いという特色を有す機械工業産業に属す K 社を対象企業とし、その昭和 53 年 3 月決算に対して、外部からの推算修正と内部データに基づく修正を行なった結果、①については、購買力損益の差異が 26.2% と大きかったが、それ以外の項目については、総資産の差異が 0.75% であることに示されたように外部修正予算の精度は高いと言える。②については、①の検証結果から明らかのように本論文で述べた分析手法は、概ね妥当であると言える。

今後の課題は、購買力損益計算及び非貨幣項目の取得時推定方法の精度向上と、タイプの異なる産業 (例えば、装置産業) に属する企業を対象として、上記実証分析を行なうことがあげられる。